

氏名	こえぬま たかし 肥沼 隆司
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第 1281 号
学位授与の日付	2022 年 3 月 17 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	膵頭部手術後膵液瘻に再建術式の与える影響 ～柿田法と Blumgart 変法の比較～
指導教員	教授 佐野 圭二（板橋・外科）
論文審査委員	主査 清水 宏明 教授（ちば・外科） 副査 三浦 文彦 病院教授（溝口・外科） 副査 有住 俊彦 講師（板橋・内科）

## 論文審査結果の要旨

主論文「膵頭部手術後膵液瘻に再建術式の与える影響 ～柿田法と Blumgart 変法の比較～」は、帝京医学雑誌（IF：なし）に掲載予定の申請者を筆頭著者とする 10 名の共著論文である。

膵頭十二指腸切除術（pancreatoduodenectomy, PD）は、他の消化器外科手術に比べて術後死亡率が高いことが知られている。術後死亡の主な原因は膵液瘻に起因する腹腔内出血であるが、膵液瘻発生率を低下させる確実な方法は未だ、明らかにされていない。我が国では、膵空腸吻合柿田式吻合法が広く行われているが、近年 Blumgart 変法の有用性が報告されるようになってきた。

そこで、この研究では、帝京大学病院で施行された膵頭十二指腸切除術 296 例において再建方法別、柿田式（1 期）再建、Blumgart 変法、および柿田式（2 期）再建において、膵液瘻の要因である術後のドレーン排液中のアミラーゼ値を測定し、その推移を各再建方法において比較・検討した。

結果は、膵頭十二指腸切除術におけるドレーンアミラーゼ値は、術後 2～4 日目のみで、Blumgart 変法は柿田法（1 期再建）よりも有意に低値だった。膵疾患以外に限定すると、術後 1 日目、術後 2～4 日目で、Blumgart 変法は柿田法（1 期再建）よりも有意に低値であった。多変量解析では、術後 2～4 日目のドレーンアミラーゼ値が高値となる危険因子は、膵空腸吻合法（Blumgart 変法以外）のみであった。したがって、Blumgart 変法は、PD 術後ドレーン抜去検討時期のドレーンアミラーゼ値を低下させ、膵液瘻発生のリスクを低減させる可能性があることが示された。

後方視的研究のため各吻合法で背景因子が異なる点、時期により再建術式の選択に差がある事、また、術後のドレーンアミラーゼ値の推移を検討するにあたって、ドレーン管理法、とくに抜去の時期が異なっていた事などはこの研究の限界としてあげられるものの、296 例の多数例において数多くの因子について検討がなされ、膵頭十二指腸切除術における膵空腸吻合法において術後のドレーンアミラーゼ値の推移からみての Blumgart 変法の優越性を示した。今後は、さらに各再建法において膵液瘻を含めた合併症発生頻度について比較検討することが望まれる。

2022 年 2 月 9 日に行われた学位審査会において、申請者は当該領域の十分な知識と経験を有していることが確認された。

以上より、学位授与可と判定した。